

日付:2015年3月8日／聖書:イザヤ書2:4～5

主題:「もはや戦うことを学ばない」

第8回「ンマハラセー」大会が先週行われた。ンマハラセーとは、うちなーぐち(沖縄口)で「ンマ」は「馬」、「ハラセー」は「走らせる、競争する」ということであり、競馬のこと。その歴史は古く、琉球王朝時代から沖縄戦が始まる前の1943年まで続けられ、500年もの長い伝統があった琉球競馬である。このンマハラセーは、競馬でありながら速さを競うものではない。「どの馬がいい走りをしているのか」「乗り手と馬の意気が合っているか」「美しく、かっこいいのはどの馬か」ということを競ったもの。速さを競わない競馬があるということに驚く。“誰が一番早い”ということではないので、当然、鞭で馬のお尻を叩くということはない。平和的な沖縄らしい競馬だと思う。

この競馬は、戦争が始まることで消滅するのだが、それは……。沖縄に日本軍が駐留することになって、小柄な琉球馬は戦争をする軍馬には向かないことから、飼育を禁止し、殺されて行った。そして代わりに日本から体の大きい馬を連れてきて、軍馬を育てるように強制された。戦争のための馬へと変えられていったのである。戦争というのは、本当に恐ろしく、悲しい。ここにもう一つの戦争の悲劇を見る。

聖書は戦争の悲惨さを教えている。戦争をするための道具をどんなに作っても、強力な最新兵器を持っていても、本当の平和はおとずれない。「戦うことを学ぶ」世界には、真の平和はないことを教えている。軍事基地は「抑止力」のために必要という声がある(「抑止力」=「基地」)。しかしこの世界に武力による平和は、結局、悲しい結末を迎えることを歴史は記している。

イザヤ書の言葉は、三千年前に戦争の虚しさからの教訓である。「剣・槍」(武器)は“いのち”を破壊するもの。その逆に「鋤・鎌」(農具)は“いのち”を生み出すもの。命を破壊する剣や槍を打ち直して、命を生み出す鋤や鎌に打ち直しなさいと聖書は教える。そして本当の「抑止力」は、“いのち”を生み出すこと、豊かな食を生み出すことから始まり、“いのち”を育むこと、友を築くこと、すなわち「抑止力」=「友人」ということである。世界中で食を分かち合い、友人ができれば争うことは無くなる。「もはや戦うことを学ばない」という聖書の言葉から、そういう広がりを感じたい。

子どもたちの未来に、真の平和を祈りつつ……。 (神谷)